

ビジョン・戦略・体制



東芝グループの環境ビジョン・戦略	▼	東芝ライテックの環境ビジョン・戦略	▼
環境マネジメント体制	▼	製品における環境配慮	▼

東芝グループの環境ビジョン・戦略

環境未来ビジョン2050

「環境未来ビジョン2050」は、「豊かな価値の創造と地球との共生をめざした環境経営を通じて持続可能な社会の実現に貢献する」ことを目的とし、持続可能な社会、すなわち脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現をめざします。2050年のあるべき姿に向けて「気候変動への対応」「循環経済への対応」「生態系への配慮」の3分野への取り組みを推進していきます。3つの取り組みの詳細は、以下リンク先に記載されています。

＜[環境未来ビジョン2050](#)（(株)東芝のサイトにリンク）

「環境未来ビジョン2050」達成に向けて、東芝グループは2050年度までに東芝グループのバリューチェーン全体でカーボンニュートラルをめざすとともに、その通過点として2030年度までに温室効果ガス排出量を70%削減（2019年度比）することを目標とします。



第8次環境アクションプラン

東芝グループは、2050年のあるべき姿に向けて「環境アクションプラン」を策定し、具体的な環境活動項目とその目標値で管理しています。1993年度の開始以降、活動の項目やガバナンスの対象範囲を拡大してきました。「環境未来ビジョン2050」の達成に向けて第8次環境アクションプラン（活動期間：2024年度～2026年度）を策定しています。

第7次環境アクションプランの項目に対して、KPIを定めて活動を推進する「目標管理項目」と基盤強化に向けて活動のモニタリングおよびプロセス強化を目指す「管理活動項目」に大別し、推進していきます。

目標管理項目

気候変動への対応

Scope1～3※1におけるCO₂排出量の削減、省エネ製品の提供における温室効果ガスの削減貢献によって省エネ活動を推進します。

循環経済への対応

事業活動における廃棄物総発生量原単位の改善、出荷製品における省資源化量の拡大によって資源の有効活用を推進します。

生態系への配慮

事業活動における水受入量原単位、化学物質総排出量原単位の改善、生物多様性保護活動の推進によって生態系の保護を図ります。

活動管理項目

ステークホルダーとのネットワークづくり、社外向け情報発信・開示の強化、社内順法強化および社内教育などを推進します。
またエネルギー起源CO₂排出量原単位の改善など第8次より目標管理項目から除外された項目もモニタリングを推進します。

※1 自社のみならずバリューチェーン全体でCO₂排出量を把握、管理することを求められており、GHG排出量算定に関する国際基準「GHGプロトコル」や環境省の「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン」などに基づき次のScope1～3に大別されます。

Scope1：自社での燃料使用による直接排出量

Scope2：自社が購入した電力や熱の使用による間接排出量

Scope3：Scope1・2以外に自社のバリューチェーン（原材料調達・物流・販売・廃棄など）で発生する間接排出量（Scope3について、さらに15のカテゴリに分類される）
<https://www.global.toshiba/jp/sustainability/corporate/environment/management/env-data.html#climate> ((株)東芝のサイトにリンク)

SBT「ネットゼロ目標」認定の取得について

東芝グループは、2024年3月にSBT（Science Based Targets）イニシアティブから「ネットゼロ目標」の認定※1を取得しました。本認定は、当社が「東芝グループ環境未来ビジョン2050」で掲げる、東芝グループのバリューチェーン全体でカーボンニュートラルをめざす目標・取り組みが、パリ協定※2の目標に整合する「科学的な根拠に基づく削減目標（SBT）」であることが認められたものです。

ネットゼロ目標の中間となる2030年度までの削減目標についても目標を引き上げ、2020年度に認定取得した「2℃未満水準」から、「1.5℃水準」を満たす内容として更新認定を受けました。

今後、2030年度目標の達成に向けて、削減施策を立てて取り組んでいきます。

＜SBT「ネットゼロ目標」認定の取得 ((株)東芝のサイトにリンク)

※1 世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求するために、企業が中長期的に設定する科学的根拠に基づいた温室効果ガス削減目標としてSBTイニシアティブが認定する。

※2 国連気候変動枠組条約締約国会議（COP21）で採択された、温室効果ガス排出削減に向けた国際枠組み

東芝ライテックの環境ビジョン・戦略

東芝ライテックグループ環境基本方針

東芝ライテックグループは環境への取り組みを、企業経営の最重要課題の一つとして位置づけ、東芝グループ理念体系「人と、地球の、明日のために。」により豊かな価値の創造と地球との共生を図ります。脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会をめざした環境経営により、持続可能な社会の実現に貢献します。私たちは照明事業130年の歴史を受け継ぎ、光あふれる未来をともに創造していきます。

事業と調和させた環境経営の推進

- 事業活動、製品・サービスにかかわる環境側面について、生物多様性を含む環境への影響を評価し、環境負荷の低減に向けた環境目標を設定して、環境活動を推進します。
- 監査の実施や活動のレビューにより環境経営の継続的な改善を図ります。
- 環境に関する法令、当社が同意した業界の指針および自主基準を遵守します。
- 従業員の環境意識をより高め、全員で取り組みます。
- グローバル企業として、東芝グループ一体となった環境活動を推進します。

事業活動での環境負荷低減と環境調和型製品・サービスの提供

- 地球資源の有限性を認識し、事業活動、製品・サービスの両面から有効な利用、活用を促進する積極的な環境施策を展開します。
- ライフサイクルを通して環境負荷の低減に寄与する環境調和型製品・サービスを提供します。
- 設計、調達、製造、物流、販売、廃棄などすべての活動段階において、気候変動への対応、資源の有効活用、化学物質の管理などの環境負荷低減に向けた施策に取り組みます。
- 持続可能な社会の実現のため、社会に与える価値や意義を考え、将来を見据えた環境技術の開発に努めます。

ステークホルダーとの連携

- 地域・社会をはじめとするさまざまなステークホルダーと積極的なコミュニケーションを図り、連携した環境活動を推進します。

第8次環境アクションプランに基づく環境目標

「環境未来ビジョン2050」に基づき、2024年度～2026年度を活動期間とする「第8次環境アクションプラン」を策定しました。「気候変動への対応」「循環経済への対応」と「生態系への配慮」の3つの活動領域において目標必達に向け、グループ一丸となって環境活動を推進しています。

2024年度は、GHG総排出量（Scope3）、廃棄物総発生量原単位、水受入量原単位、化学物質総排出量原単位の4項目で目標達成しました。

一方、目標未達項目であるGHG総排出量（Scope1+2）、省エネ製品の提供によるGHG削減貢献量、省資源化量については、次年度の計画達成に向けて改善に取り組んでいます。

活動領域		活動項目	2024年度			2025年度	2026年度
			目標	実績	評価	目標	目標
気候変動への対応	事業系	GHG総排出量（Scope1+2）（千t-CO ₂ ）	16.3以下	17.4	×	13.5以下	10.8以下
	製品系	GHG総排出量（Scope3）（千t-CO ₂ ）	11,476以下	9,896	○	10,970以下	10,640以下
		省エネ製品の提供によるGHG削減貢献量（万t-CO ₂ ）	485以上	471	×	529以上	564以上
循環経済への対応	事業系	廃棄物総発生量原単位	2022年度比 2%改善	2022年度比 2%改善	○	2022年度比 3%改善	2022年度比 4%改善
	製品系	省資源化量（千t）	29.3以上	29.2	×	30.0以上	31.1以上
生態系への配慮	事業系	水受入量原単位	2022年度比 2%改善	2022年度比 6%改善	○	2022年度比 3%改善	2022年度比 4%改善
		化学物質総排出量原単位	2022年度比 2%改善	2022年度比 6%改善	○	2022年度比 3%改善	2022年度比 4%改善

○ 達成 × 未達成

SBTに関する東芝ライテックの取り組み

東芝ライテックグループは、東芝グループのSBT目標の達成に向けてScope1※1・Scope2※2（自社グループの事業活動による温室効果ガス排出量）の合計を2030年度までにカーボンニュートラル、Scope3※3における販売したエネルギー消費製品・サービスの使用による温室効果ガス排出量（カテゴリ11）の合計を2030年度までに28%削減（2019年度比：年率約2.5%削減）を目標に環境活動を推進します。SBTとして当社の具体的な目標を以下に示します。

活動項目	2019年度実績 （基準年）	2024年度実績	2030年度目標
Scope1・Scope2における温室効果ガス排出量（千t-CO ₂ ）	23.9	17.4	カーボンニュートラル
Scope3カテゴリ11における温室効果ガス排出量（千t-CO ₂ ）	12,947	9,896	9,322以下

※1 自社での燃料使用による直接排出量
※2 自社が購入した電力や熱の使用による間接排出量

SDGsと東芝ライテックの環境活動

2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」の成果文書として「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げられました。
東芝ライテックグループは、事業活動を通じて以下の8項目に貢献しています。

気候変動への対応 7 再生可能エネルギーを広く活用しよう - 再生可能エネルギーの導入による 自社エネルギー使用量の低減 13 気候変動に具体的な対策を - 省エネ高効率設備への更新による 自社エネルギー使用量の低減 - LED照明の使用による消費電力削減	循環経済への対応 12 つくばる資源、つかう責任 - 歩留り改善による廃棄物量の低減 - 製品の軽量化、長寿命化による省資源化
環境基盤活動 4 質の高い教育をみんなに - 社内外教育による環境意識、知見の向上 15 陸の豊かさも守ろう - 社外への生物多様性取り組みのPR活動 17 パートナリシップで目標を達成しよう - 社員や社外環境団体との連携による 環境保全促進	生態系への配慮 3 持続可能な開発目標を達成しよう - 化学物質の適正管理及び 使用禁止物質等の情報周知 6 安全な水とトイレを世界中に - 生産時の循環水利用の推進 15 陸の豊かさも守ろう - 希少動植物の保護等による 生物多様性保全活動 17 パートナリシップで目標を達成しよう - 地元小学生や社外環境団体との連携による 環境保全促進

環境マネジメント体制

ISO14001

環境管理の国際規格であるISO14001は、1996年9月に発行されました。当社は、同年10月に照明業界としては初めて横須賀工場（現横須賀事業所）が認証を取得し、国際的な環境優良企業の第一歩を歩み出しました。その後も国内外グループ企業※1においてISO14001の認証を取得し、環境保全活動に努めています。環境マネジメントシステムの適合性、有効性を検証するためISO14001認証機関による審査及び社内資格者によるISO14001内部監査を定期的に行っています。

ISO14001認証機関による審査では、2017年8月にISO14001:2015の認証規格を取得しました。さらに2019年度7月にはISO9001:2015との統合審査を実施、2020年度8月、ISO9001/14001更新審査を受審しました。今後もISO14001推進体制の下、引き続き継続的改善を進めて参ります。

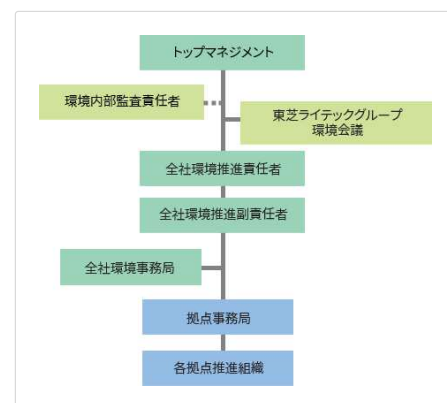
※1・東芝ライテック株式会社 ISO認証番号 EC99J2026 最終更新日 2023年10月29日
・東芝ライテック・コンポーネンツ・タイ社 ISO認証番号 SCU002458E 最終更新日 2024年1月24日



登録証（登録番号：EC99J2026）
[登録証を参照する](#) (PDF:2.91MB)



CERTIFICATE（Certificate No.:EC99J2026）
[refer to a certificate](#) (PDF:3.19MB)



ISO14001推進体制

製品における環境配慮

東芝グループでは、開発するすべての製品・サービスにおいて環境性能を継続的に向上させることにより、気候変動をはじめとする環境課題の解決に貢献することをめざしています。

まず、製品・サービスの使用時において社会やお客様の課題解決につながる環境性能を抽出し、それを達成するための開発目標「ecoターゲット」を設定して、製品仕様に盛り込みます。

そのうえで、製品・サービスに求められる各種規制の遵守を確認するとともに、製品・サービスのライフサイクルの各段階で必ず達成すべき環境性能として「ECP※の3要素（東芝の環境品質）」を考慮した「ECP基準」を定め、管理することで、製品・サービスの環境品質を確保しています。

※ Environmentally Conscious Products：環境調和型製品

材料調達・製造・流通・使用・廃棄・リサイクルといった製品ライフサイクルの全ての段階を通じて、環境に配慮した製品のこと

製品の環境配慮には、「地球温暖化の防止」「資源の有効活用」「化学物質の管理」の3つの要素があります。この3つの要素を盛り込んだ総合的な環境性能を、製品の機種ごとに環境自主基準（すなわちECP基準）として設定します。製品環境アセスメントでは、法的遵守事項の確認だけでなく、すべての開発製品においてECP基準をクリアすることを確認しています。

＜製品における環境配慮のプロセス、ECPの3要素＞（株）東芝のサイトにリンク）

環境調和型製品の紹介

以下に環境性能に優れた製品を紹介します。（数値実績は2025年11月時点のデータを示す）

LED非常灯器具 丸形ブラケット ＜使用場所＞ 施設内の廊下

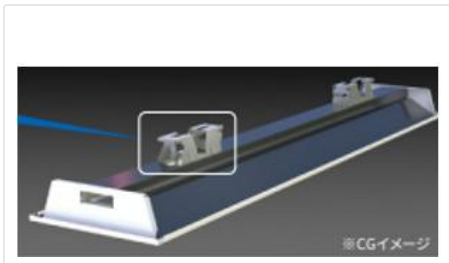


環境配慮要素： 資源の有効活用

- 従来品に対して重量約50%軽減
- 光源を交換可能な仕様でモデルチェンジし、器具の廃棄削減に貢献

※比較対象 開発品：LEDTC31688N-LS1
従来品：FTC-31680-GL15

LEDベースライト TENQOOシリーズ リニューアル器具、リニューアルキット ＜使用場所＞ オフィス・研究施設、病院・福祉施設、商業施設



リニューアル器具



リニューアルキット

環境配慮要素： 資源の有効活用

- 施工時間の短縮による従来光源からLEDへの効率的なリニューアル
- コンパクトな梱包（リニューアル器具）、既設蛍光灯器具本体の流用（リニューアルキット）による廃棄物量の削減

LED小径ダウンライト ＜使用場所＞ ホテルの居室、カフェ、ラウンジなど



横から見たダウンライト

環境配慮要素： 資源の有効活用

- 従来品に対して重量約33%軽減
- 埋込穴直径50mm、器具高さ100mmのコンパクトサイズ、天井面への優れた施工性
- 低光束域（微小な電流領域）でも安定点灯（0%から100%までのなめらかな調光）が可能

※比較対象 開発品：LEDD-05305NV-RD1
従来品：ID-76050(W)

LED高天井器具 軽量ハイスpekタイプ ＜使用場所＞ 工場・倉庫、スポーツ施設



環境配慮要素： 地球温暖化の防止、資源の有効活用

- 固有エネルギー消費効率192.9lm/W
- 従来品に対し消費電力約72%削減
- 従来品に対して重量約68%軽減

※比較対象 開発品：LEDJ-21005N-LD9
従来品：HE-4012-200HWA（電源）+ SN-4044A（器具）+ MF400・L-J2/BU-PS（ランプ）

街路灯リニューアル用LED電球 <使用場所> 住宅地、街路



環境配慮要素： 地球温暖化の防止、資源の有効活用

- 従来品と同じ電力でより高い光束を実現し、効率123%向上（点灯方向任意系:電球色28W 新旧比較）
- 「点灯方向任意形」ランプであり、防雨形街路灯（上向き・下向き・水平点灯形）に対してリニューアル可能
- リニューアルによる器具廃棄物量の削減

※比較対象 開発品：LDTS28L-G/2
従来品：LDTS28L-G

小規模向け無線照明制御システム LinkLED Air <使用場所> オフィス、工場・倉庫、店舗



環境配慮要素： 地球温暖化の防止

- 照明器具と操作・設定端末（タブレット）をベースにあかり・人感センサーやスケジューラーと組み合わせて省エネを実現
- あかりセンサー 昼光検知による調光制御
- 人感センサー 人感検知による調光制御
- スケジューラー 点灯・消灯・調光の時間管理による調光制御

詳細は「[気候変動への対応](#)」>「[エネルギー消費にかかわる製品・サービス](#)」の事例を参照

LEDロケーションライト <使用場所> 屋外（撮影用）



環境配慮要素： 地球温暖化の防止、資源の有効活用

- 従来品に対し消費電力約68%削減
- 従来品に対して重量約52%軽減
- 光源交換ビジネスによる廃棄物量の削減
- 自然空冷技術（冷却用ファンレス）による部品数の削減

※比較対象 従来品：HMI575W

ソケット型LED ECE規格品 <使用場所> 車載



環境配慮要素： 地球温暖化の防止、資源の有効活用

- 省エネルギー
LED化効果：従来品に対して消費電力約92%削減
- 省資源
従来品に対して重量約47%軽減（ソケット含む重量）
- UN/ECE規格認定取得
国際規格製品で海外・国内車両の電球置換えを推進

※従来品：W21/5W T20

過去の環境調和型製品の紹介

- > [2024年度](#)  (PDF : 1.19MB)
- > [2023年度](#)  (PDF : 1.72MB)
- > [2022年度](#)  (PDF : 1.90MB)
- > [2021年度](#)  (PDF : 2.03MB)
- > [2020年度](#)  (PDF : 2.13MB)
- > [2019年度](#)  (PDF : 991KB)
- > [2018年度](#)  (PDF : 810KB)
- > [2017年度](#)  (PDF : 716KB)
- > [2016年度](#)  (PDF : 595KB)
- > [2015年度](#)  (PDF : 529KB)
- > [2014年度](#)  (PDF : 694KB)

    : このアイコンのリンクは、新しいブラウザウィンドウ、または新しいタブを開きます。
本サイトおよび本サイトからリンクする弊社提供サイトでは、ブラウザのアクティブスクリプト (JAVASCRIPT) が有効に設定されていない場合、正常な表示や動作とならない場合があります。

リンクや画像のご利用	>
東芝ライテック(株)トップページ	>
個人情報保護方針	>
サイトのご利用条件	>
お問い合わせ	>